



# 大好き かたびら

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/katabira>

横浜市立帷子小学校  
学校だよりNo.11 3月号  
平成31年2月28日  
横浜市保土ケ谷区  
川辺町65-1  
Tel.045-335-5896

## 終わり 始まり

校長 齋藤容二

梅香の候、皆様お変わりなく御健勝のこととお慶び申し上げます。平成30年度の最後の月を迎えるにあたり、4月からの1年間、保護者・地域の皆様には子どもたちのよりよい成長のため、本校教育活動に多大なるお力をいただきましたこと、改めて感謝いたします。ありがとうございました。

年度末が近付き、校内だけでなく様々な組織、集まりにおいても1年間のまとめが行われてきました。学校説明会、PTA総会、宮田中ブロック小中合同研修会、宮田中学校評議員会、そして、「まち」と共に学校づくりを考える懇話会などです。その中では、学校に対する評価や子どもたちの様子、よさや課題等が話題となりました。

- ・学校教育に対して概ねよい評価をいただいている。しかし、低い評価の中の課題もしっかり受け止めることが大切である。
- ・友達大好き、素直で、頑張る子どもたちが多く、より主体的に行動できるとよい。
- ・コミュニケーションや挨拶など、継続してよりできるようにしていきたい。
- ・学校、保護者だけでなく、地域の人も協力して子どもたちの安全を守っていきたい。

数多くの貴重な意見を、今後の教育活動へ生かしていきたいと考えています。

さて、上の話題の中にもあったことですが、朝、数多くの保護者、地域の皆様が、登校する子どもたちの安全を見守ってくださっています。雨の日も、寒い冬の日も変わらず交差点に立ち、子どもたちが安全に道路を渡れるようにと旗をかざし、声かけをしてくださっています。

その、朝の見守りを中心になって行ってくださっている学援隊の永野さんは、10年以上にわたり、毎朝古町橋横の横断歩道に立ち続けてくださっています。その永野さんが、2月に学校へいらしたときに言われた言葉に、私は胸が熱くなりました。

「私の目が黒いうちは、絶対にあそこ（古町橋）で事故は起こさせない。」

永野さんをはじめ、何人もの方が毎朝子どもたちの見守りをしてくださっています。本当に感謝の言葉しかありません。ですが、我々教職員は、ただ感謝するだけではなく、子どもたちにその意味を伝え、子ども自らがどう行動していくとよいのかを考えられるようにすること、そして、考えたことを行動できるようにしていくことも求めていくことが大切であると考えています。

人が変わっていても、その地域にある風土や雰囲気、特色などが引き継がれていくことは、様々なところであります。それは、形あるものとしてだけでなく、精神的なものとして、例えば「〇〇の気風」「〇〇スピリッツ」のように表現されることもあるでしょう。江戸期に宿場町があったこの地域には、その頃からの気風が受け継がれているのではないかと私は思います。学校教育も、学校と保護者・地域とのかかわりも、これまで綿々と受け継がれてきたものがあっての今の帷子小学校の姿であります。

「人を大切にする。人と人とのかかわりを大切にする。」赴任一年を経て、強く感じる帷子の気風です。

人と人とのかかわり、つながりは決してゼロからの始まりではなく、継続しているのです。新しい年度の始まりがよいものになるよう、平成30年度終わりとなる3月の毎日を大切にし、4月からのよい始まりへとつなげていきたいと思えます。